

会社の狙いが見えみえ！ 「主任レポート」NO！の声を皆で上げよう！

1月4日、総点呼において小寺所長は『平成19年の振り返り』『平成20年の取り組み』『主任レポートについて』の訓辞を行いました。社長が昨年末に発表した新しい年の始めとして景気の良いおめでたい話？のはずのリニア自己負担建設については一切ふれることはありませんでした。

そのなかで毎月恒例となっている『主任レポート』について、今回所長は主任レポートの成果として『ステンレス製手袋』『一体型氏名札』の2点をあげました。

まず、『一体型氏名札』は、所長自身がささやかと言っているぐらいのもので、こんな事を成果とよく言えたものだというのがもっぱら社員の間で囁かれています。しかし、この事をよく考えると主任レポートに氏名札についての注意行為があったことが書かれていたことのあらわれであり、当然そこには注意された人の個人名も書かれていると思ってまず間違いないでしょう。まさに管理者の変わりに社員のアラを主任レポートで密告しているということです。このことは、会社が管理者や監視カメラだけでは監視しきれない部分を主任に監視させようとしている証明ですし、これがエスカレートしていくと社員間での相互監視体制が構築され人間関係はズタズタになり職場は混乱するのは目に見えています。

次に、『ステンレス製手袋』についてですが、氏名札同様によくこんな事をここにきて成果として恥ずかしくもなく言えたものです。これまで幾度となく窓ガラスの交換作業において労災事故を含むケガが発生してきました。しかしこれまで会社・管理者は労災防止対策を行うことなく対策を放置してきたのです。

所長は総点呼で『主任として自覚がない・・・』とまで言って一部の主任社員を批判していますが、この手袋の件でいえば所長を始めとした管理者こそ口先で労災を唱えるだけで、出来得た対策（手袋の配備）すら実施してこなかったのであり、自らの職名の自覚がない口先だけの人間と自覚してもらいたいものです。

所長は、上記の2点を成果として恥ずかしくもなく訓示して、主任レポートの必要性や有効性を言っているのですが、そうまでしても主任に絶対服従を強いて自らの点数稼ぎをしようとする狙いが透けて見えます。

そして、会社の言う「あるべき姿」に基づく主任レポートは、労働者（一般社員）を使い捨てるために会社への忠誠を誓わせることによって、社員相互監視体制による絶対服従体制構築が狙いなのです。

社員同士がアラ捜しするような職場に人間関係は存在しません。書く側も書かれる側も、私たちの職場を守るために「主任レポート」NO！と声を上げようではありませんか。